

自然体験活動指導者（NEAL リーダー）養成講習兼ボランティア養成セミナー
実施報告

企画指導専門職 齋藤 雄

1. 参加者（募集定員 30名）

	高校生	大学生	社会人	合計
男性	3	9	4	16
女性	2	16	1	19
合計	5	25	5	35

2. 目的

- ・ 子どもの発達段階に応じて、適切かつ安全に指導ができる自然体験活動指導者、ボランティアを育成する。
- ・ 自然体験活動の面白さ、楽しさを知り、それを伝えられる指導者、ボランティアを育成する。

3. 事業の設計

昨年度まで・・・

ボランティア養成セミナーとして、
同時期に2泊3日で実施



本年度から・・・

ボランティア養成セミナーも兼ねて、
NEAL リーダー養成講習を実施

例年の主な参加者

教育事業等のボランティアを担う大学生
主に・・・

- ・ 佛教大学レクリエーション研究会の学生
- ・ 福井県立大学ボランティアサークル「レインボー」の学生

新入生の自然体験や
ボランティアの入り口
特に新入生のこれからの活動
の基礎となるような知識や技
術を学べる場。

4. ボランティアの現状

- フットワークが軽く、ネットワークが広く、様々な施設でのボランティア経験が豊富な学生が多い。
- ボランティアの自主企画で、全国から50名近い参加者を集める力を持っている。
- ボランティアとして、経験は積み重ねることができているが、理論的・専門的な知識や技術を学ぶ場を当施設が提供できていない。
- 子どもたちと関わるための心構えや大切にしたいことの共有が不十分である。

5. スケジュール

1日目	2日目	3日目																		
<table border="1"> <tr> <td>施設職員</td> <td>ガイダンス</td> </tr> <tr> <td>青木先生</td> <td>青少年教育における体験活動ボランティア活動の意義</td> </tr> <tr> <td>施設職員</td> <td>自然体験活動の技術(野炊等) 焚き火を囲んでの情報交換会</td> </tr> </table>	施設職員	ガイダンス	青木先生	青少年教育における体験活動ボランティア活動の意義	施設職員	自然体験活動の技術(野炊等) 焚き火を囲んでの情報交換会	<table border="1"> <tr> <td>島崎先生</td> <td>自然体験活動の特質</td> </tr> <tr> <td>施設職員</td> <td>自然体験活動の技術 スノーケリング or シーカヤック</td> </tr> <tr> <td>島崎先生 消防署</td> <td>リスクマネジメントの考え方 救命救急法</td> </tr> </table>	島崎先生	自然体験活動の特質	施設職員	自然体験活動の技術 スノーケリング or シーカヤック	島崎先生 消防署	リスクマネジメントの考え方 救命救急法	<table border="1"> <tr> <td>平田先生</td> <td>対象者理解</td> </tr> <tr> <td>安田先生</td> <td>自然体験活動の指導</td> </tr> <tr> <td>施設職員</td> <td>青少年教育施設におけるボランティア活動の理解 等</td> </tr> </table>	平田先生	対象者理解	安田先生	自然体験活動の指導	施設職員	青少年教育施設におけるボランティア活動の理解 等
施設職員	ガイダンス																			
青木先生	青少年教育における体験活動ボランティア活動の意義																			
施設職員	自然体験活動の技術(野炊等) 焚き火を囲んでの情報交換会																			
島崎先生	自然体験活動の特質																			
施設職員	自然体験活動の技術 スノーケリング or シーカヤック																			
島崎先生 消防署	リスクマネジメントの考え方 救命救急法																			
平田先生	対象者理解																			
安田先生	自然体験活動の指導																			
施設職員	青少年教育施設におけるボランティア活動の理解 等																			
<p>期待する参加者の反応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ よし、3日間、自然体験活動について、学んでみよう。 ・ なるほど、体験活動、ボランティア活動ってこういうことなんだ。 ・ 自然体験活動って楽しい！ 	<p>期待する参加者の反応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自然の中で過ごす気持ちがいいし、仲間と一緒に活動は楽しい。 ・ 山でも、海でも、自然にふれることでいろいろな発見があるなあ。 ・ 若狭湾って、こんなところなんだ。 ・ リスクマネジメントってこういうことか。 	<p>期待する参加者の反応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 指導者として、自分ならどんなことができるだろう。 ・ これからの活動で、もっと子どもたちのことを知ってみたい。 ・ これからも指導者としてスキルアップしていきたい！ 																		

6. 実施後の参加者のアンケートに記載されていて欲しい内容

- ・ 楽しかった。
- ・ いい指導者は、いい参加者にもなれる。
- ・ また来たい。また体験したい。
- ・ 学んだこと、気づいたことを伝えたい。
- ・ 参加者と指導者の間にいるボランティアの役割の大切さを知ることができた。

7. 担当者の思い

- ・ 自然体験活動についての基礎を学ぶことができる場を作りたい。
- ・ 自然体験活動の知識や技術を参加者と一緒に深めていきたい。
- ・ 講師の方々から、いい刺激を受け、指導者としての視点を持ってもらいたい。

8. 事業の実際

5月3日(火)

「ガイダンス」 当施設 企画指導専門職 齋藤 雄



この3日間の研修の流れやNEAL制度についての説明を行った。NEAL制度については、ボランティアとして活躍しながら、自身のスキルアップの手立てとして活用してもらいたいと伝えた。これまでボランティアとして活躍して来た学生も、こうした資格については、あまり知らなかったようである。

「青少年教育における体験活動」

「ボランティア活動の意義」

国立青少年教育振興機構青少年教育研究センター 研究員 青木 康太郎氏



体験活動の意義や現状について、調査や先生の経験を交え、話していただいた。また、子どもたちと指導者をつなぐ大切な役割を担うボランティアの意義や留意点なども、話していただいた。ボランティア活動が、子どもたちの体験の場、学びの場の創出につながる事が十分理解できたのではないかと。

「自然体験活動の技術」 当施設 企画指導専門職 齋藤 雄



野外炊飯については、強風のため、鉋の使い方など安全に関する説明は室内で行った。参加者としてまず自分自身が体験をしてもらい、活動についての一通りの流れを体験する機会とした。



5月4日(木)

「自然体験活動の実際」

NPO法人信州アウトドアプロジェクト 代表理事 島崎 晋亮 氏



長野県栄村をベースに、教育や観光など様々な分野で活躍する島崎氏から、体験活動の持つ多様な可能性や自身が考える体験活動の意義や魅力などについて、話していただいた。参加者にとって、島崎氏の思いを聞くこと、実際に地域で行われている事例を知ること、多くの刺激を受け、体験活動の幅広い活用のヒントを得られる講義となった。

「自然体験活動の技術」 当施設 主任企画指導専門職 入矢 完



当施設が提供する海の活動のうち、シーカヤックを体験した。活動を通して、安全に対する配慮を学ぶとともに、海の魅力や開放感を感じられたことであろう。天候もよく、気持ちのいい海の活動であった。



「自然体験活動の安全管理」

NPO法人信州アウトドアプロジェクト 代表理事 島崎 晋亮 氏



午前中の講義に続き、島崎氏より、安全管理の手法として、リスクの分析と対処について、講義をしていただきました。その後、野外炊飯やキャンプファイアー、シーカヤックで自分自身が体験したことを素材として、そこで感じたり見つけたりしたリスクを振り返って、参加者数人で話し合い、まとめ、発表した。



休憩時間に・・・



2日目の夕方、講義の途中ではあったが、研修室の窓から、沈んでいく夕日が見えたので、全員で休憩して、ベランダから眺めた。普段の生活の中で、ゆっくりと沈む夕日を見ることは、ほぼないだろう。写真を撮ったり、話したり、自然を感じられるひと時を過ごすことができた。



5月5日(木)

「対象者理解」

至学館大学健康科学部健康スポーツ学会 教授 平田 裕一 氏



参加者同士でまず、集団宿泊体験活動の思い出や旅の思い出などを話して、相手を理解する方法を、体験を通して学んだ。その後、子どもたちの発達段階に合わせた指導方法や望ましいかかわり方についても話していただき、子どもたちと関わる上で、基礎的な知識や知っておいてもらいたいことなどを分かり易く伝えていただいた。

「自然体験活動の指導」

京都市花背山の家 所長 安田 公一 氏



NEAL 講習の最後のコマとして、ボーイスカウトの経験があり、野外ゲームの書籍も執筆されている安田先生より、体験を中心とした講義をしていただいた。安田先生が指導するゲームで参加者全員がとても楽しく盛り上がり、その説明の仕方、テンポの良さ、流れなど、参加者として体験を通して、学べる非常によい時間をつくっていただいた。参加者同士の距離が、最後に一気に縮まった。

「青少年教育施設の現状と運営」 当施設 所長 西岡 裕介

「青少年教育施設におけるボランティア活動」 当施設 事業係 藤間 隆行

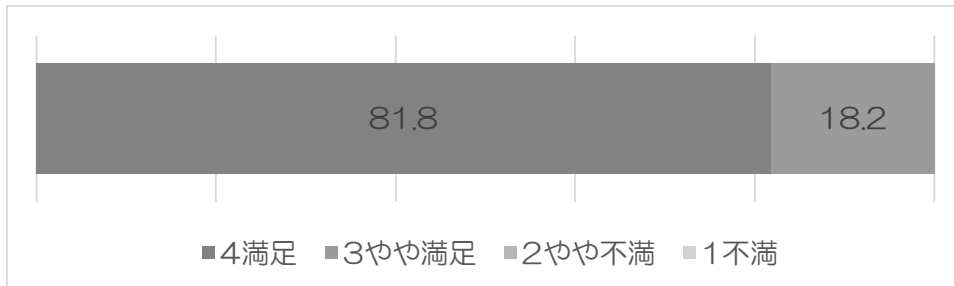


NEAL 講習については、午前中の講義と午後の認定試験で終わりとし、ここからは、ボランティア養成セミナーの講義となる。2名を除く参加者が引き続き受講した。所長より、当施設の運営や事業に関する講義をいただいたのち、ボランティアを募集する事業についての紹介、手続きについての説明を行った。実際の活動を知ること、具体的なイメージが持てたようであった。

9. アンケート結果について

(1) 事業について教えてください。

① 事業全体をとおしてどうでしたか。



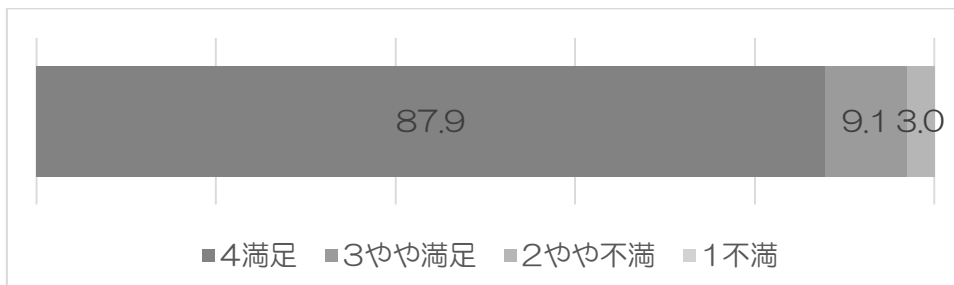
- 講義が多かったが学びもあった。
- 講師の方の講義の内容も分かり易く、研修プログラムも充実していた。
- ボランティアのことや共同生活、講義と内容が濃くて良かったです。

② この事業のプログラムはどうでしたか。



- 様々な分野の講師がいて、勉強になった。
- NEALリーダーとボラセミを兼ねていてよかった。
- ニーズに対応した内容で、充実感のあるプログラム内容であった。
- レクリエーションを含んだ「自然体験活動の指導」は初回にもってきて、IBの実体験を兼ねた方が良かったと考える。
- 少し講座が多く感じた。もっと体を動かしたい。

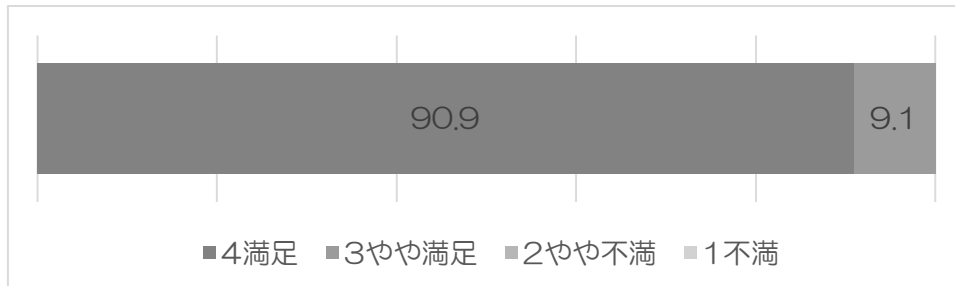
③ この事業の運営はどうでしたか。



- 職員さんも一体となっていて良かった。
- キャンプファイヤーの決行の理由も聴けて、よく考えてプログラム運営をされていると思いました。

- 研修者への配慮がされており、学びの大きい運営であった。感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。
- (役割) 担当があったのでスムーズだったと思います。
- もう少しゆるくてもいいかなと思った。

④ 職員の指導・助言や対応はいかがでしたか。



- 分かりやすい説明で良かった。
- ユーモアがあっておもしろかった 分かりやすかった。
- 的確な指導・助言で、研修がとても有意義なものとなった。
- 丁寧で良かったです。

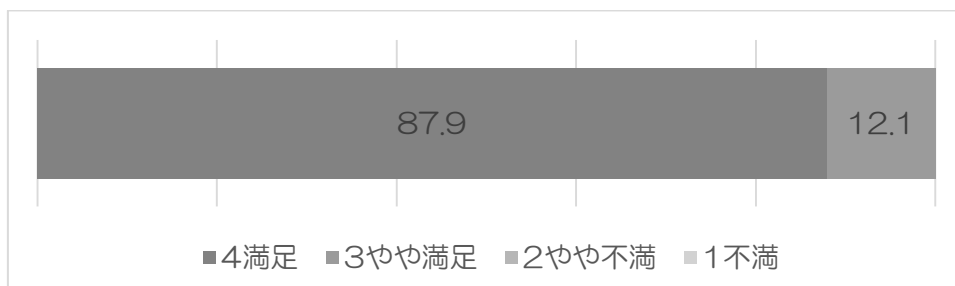
<講義について>

⑤ 講義「青少年教育における体験活動」はいかがでしたか。



- 体験活動は減少ばかりだとおもっていた。
- 青少年教育における体験活動の必要性和意義について深く理解でした。
- なぜ体験が必要なのかなど、本質的なことを学べた。

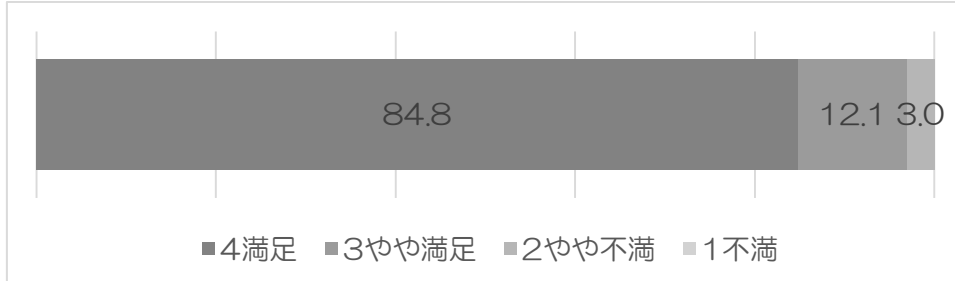
⑥ 講義「ボランティア活動の意義」はいかがでしたか。



- “ボランティア” について、きちんと考えること機会になった。

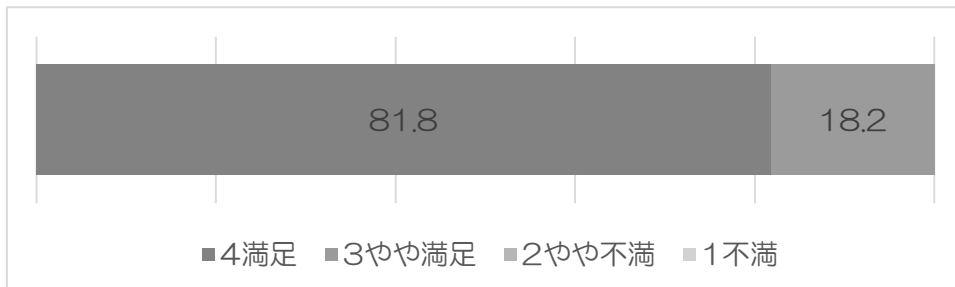
- ボランティア活動の社会的役割と意義について、真の理解につながった。
- ボランティア活動の意義を考えたことがなかったから、勉強になった。

⑦ 実習「自然体験活動の技術（野外炊飯・キャンプファイアー）」はいかがでしたか。



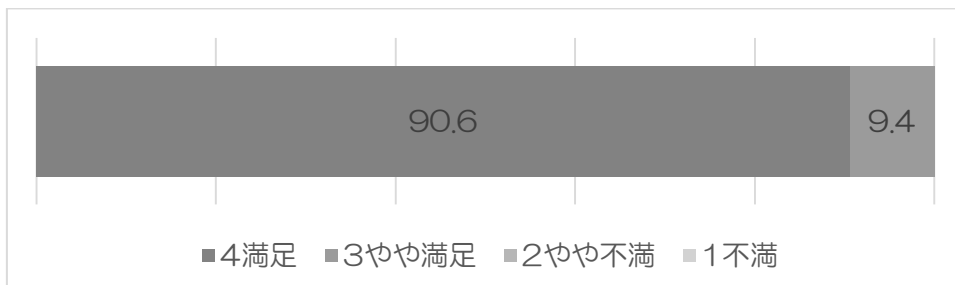
- キャンプファイアーの時の職員さんのガチ勢具合に驚きました。
- 体験者としてとても楽しめた。
- 野外炊飯の指導の在り方についても考えることができ、キャンプファイアーのストーリー性について知ることができた。
- カレー自体は失敗したが、炊飯の人たちと仲が深まった。

⑧ 講義・実技「自然体験活動の特質」はいかがでしたか。



- 自然体験活動の特質及び役割等について、改めて実感することができた。
- 地域をどう活性化させるか、考えさせられました。
- 集落で行われている祭りやイベントを知れて面白かった。

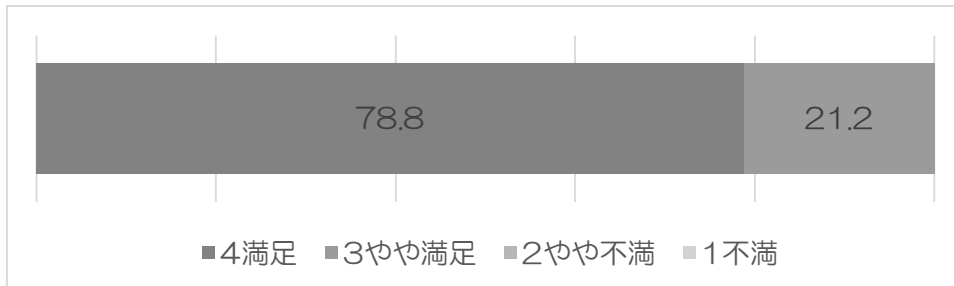
⑨ 実技「自然体験活動の技術」はいかがでしたか。



- 自由時間もあってスノーケリングできなかった分も楽しめました。
- 初めてのシーカヤックとても楽しかった。
- 所の特色を生かした体験ができ、感動し、とても大きく自然体験活動の重要性とポ

イントを身を持って感じる事ができた。

⑩ 講義「自然体験活動の安全管理」はいかがでしたか。



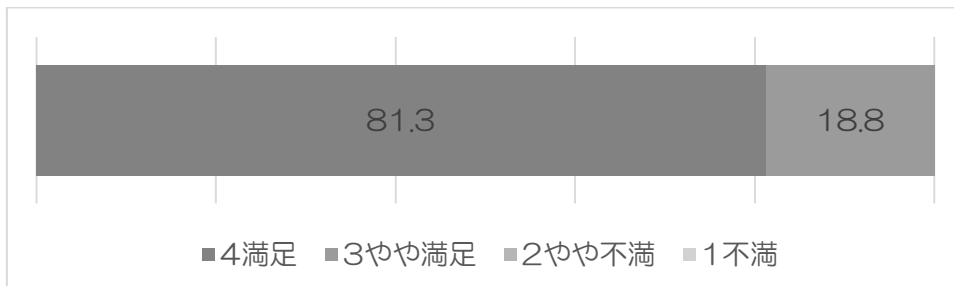
- リスクマネジメントのやり方はこれからも活用できそうです。
- 回避ばかりではなく、時にはリスクが必要っていうのが心に残った。
- 単なる「危険」という認識から構造化されたものとなった。
- リスクに関する議題で、みんなで話し合い、参考になる考えも様々聞くことができ、とても勉強になった。
- グループワークで他者の考えが吸収できました。

⑪ 講義「対象者理解」はいかがでしたか。



- いろいろ考えることが必要だなあと思った。
- それぞれの発達段階における対象者の理解が大切であると実感できた。
- 年齢ごとに学ぶことができました。
- 難しかった

⑫ 講義「自然体験活動の指導」はいかがでしたか。

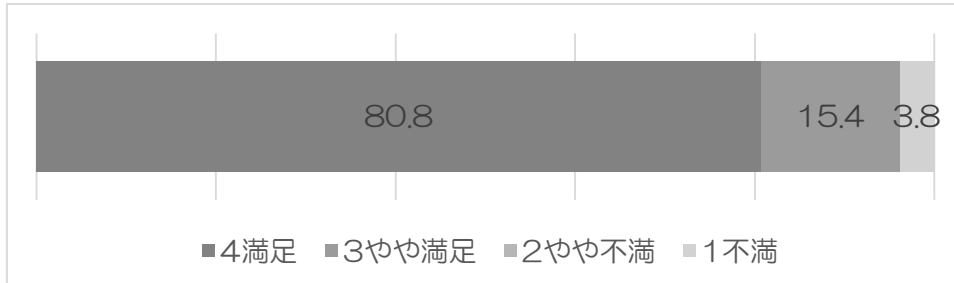


- レクリエーション楽しかった。そこから学べることもあった。
- 体験活動を運営していく上で、実践できるゲーム等も参考になり、有意義な研修の

コマの一つとなった。

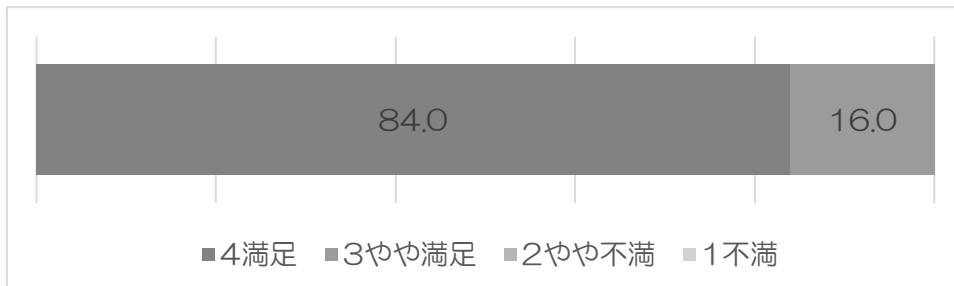
○ 楽しく参加者の人たちと交流ができて良かったです。

⑬ 講義「青少年教育施設の現状と運営」はいかがでしたか。



○ 事業に行きたいと思わせる魅力的なお話でした。

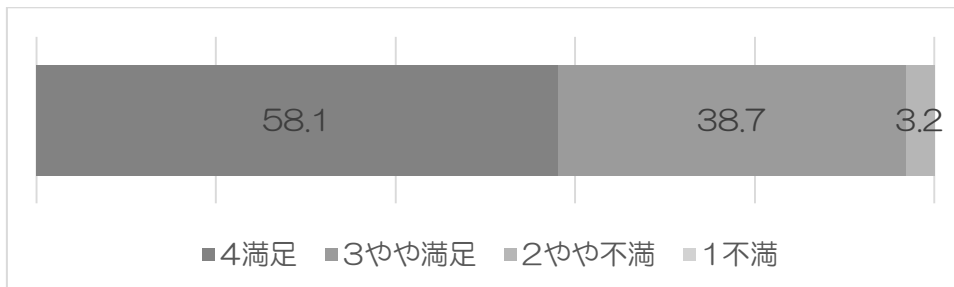
⑭ 講義「青少年教育施設におけるボランティア活動」はいかがでしたか



○ 若狭や他の施設の活動に参加したくなりました。

(2) 青少年自然の家での生活や食事について教えてください。

① 宿泊した部屋はどうでしたか。



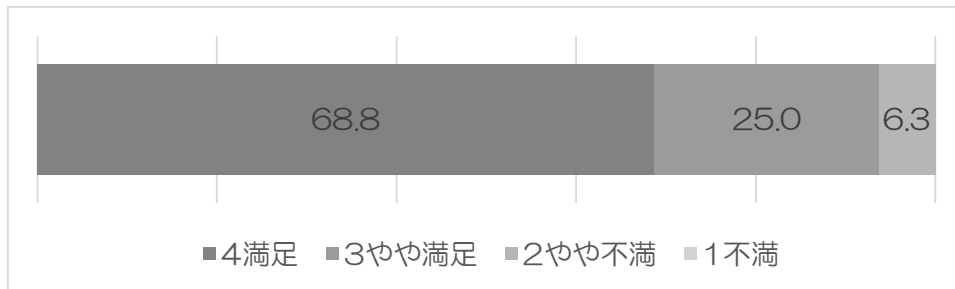
○ きれいでした

○ ベッドがきれいでした。

● ほこりや髪の毛が少し落ちていた。

● 湿気が多かったように思いました。

② お風呂場はどうでしたか。



○ 清潔感があり、混雑することもなく快適に入浴できた。

● お湯が少しあつかった。

③ 食事はどうでしたか。

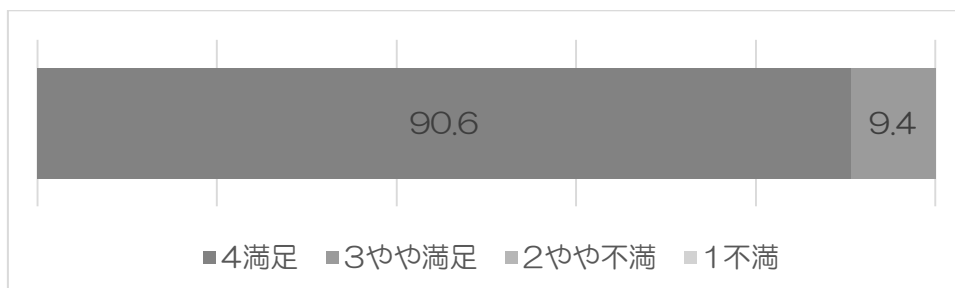


○ おいしかった。でも2日連続カレーがちょっと驚いた。

○ バランスが取れていて、メニューも充実していて、おいしかった。

○ 栄養バランスがとれていてよかったです。

④ 食堂の職員の対応はどうでしたか。



○ 親切でした。

○ 笑顔で対応してくださり、安らいで食事をとることができた。

○ 丁寧で良かったです。

○ 皆さん親切で良かったです。

(1) これまでに「国立若狭湾青少年自然の家」の事業に参加したことがありますか。

はじめて・・・11人

2～4回・・・8人

5～9回・・・4人

10回以上・・・8人

(2) この事業をどのようにして知りましたか。(いくつえらんでもかまいません)

①チラシを見て 7人

②人から紹介されて 25人

③新聞・雑誌・テレビ・ラジオなどで 1人

④ダイレクトメールで 2人

⑤インターネットで 5人

⑥その他 サークルのつながりで 3人

(3) この事業に参加された理由はどれでしょうか。(複数回答可)

①内容に興味があって 25人

②友人・知人に誘われて 8人

③上司に勧められて 2人

④講師がよいので 2人

⑤交友を広げるため 10人

⑥自己啓発のため 11人

⑦その他(ボランティアになりたいため) 1人

(4) 募集案内(チラシなど)はわかりやすかったですか。

①とてもわかりやすかった 5人

②わかりやすかった 23人

③わかりにくかった 0人

④見なかった 3人

問4. この事業に参加して、ご意見やお気づきの点がありましたらお書きください。

○ スタッフの方の事業に対する思いが伝わりました。3日間無事に活動させていただけて何よりです。ありがとうございました。

○ 有意義な研修となりました。ありがとうございました。

○ 多くの方々と交流ができ、交友を広げることができました。講義の内容、体験も内容がおもしろく濃くて毎日が充実していました。参加して良かったと思いました。

- 自然体験活動指導者を目指していたり、ボランティアをしている自分にとってすごく勉強になりました。
- NEALリーダーの資格のためには講義が多いのは当然とはわかっているのですが、新たに法人ボラになる子にもっと楽しめる活動をして、若狭のリピーターになるような工夫をお願いしたいです。

10. 事業の成果

本事業の成果と課題について、参加者の感想を踏まえながら、以下に挙げる。

- 「自然体験活動指導者を目指していたり、ボランティアをしている自分にとってすごく勉強になりました。」「多くの方々と交流ができ、交友を広げることができました。講義の内容、体験も内容がおもしろく濃くて毎日が充実していました。参加して良かったと思いました。」とあるように、参加者にとって、講師の考えを聞いたり、体験したり、参加者同士で話したりすることで、新たな知見を得たり、考え方が広がったりとの感想が多く聞かれた。

それぞれの講師の専門的な講義を受けることで、体験活動に対する理解が深まったと感じている。指導者やボランティア自身が、“なぜ今の子どもたちに体験が必要なのか”、“体験活動の効果とは何か”、“体験活動をする上で配慮すべきことは”などについて、今後も経験を積み重ねる中で、常に考え、自分自身の考えを持ち、活動していくことができれば、指導者としての可能性がより広がっていくと考える。これまでの当施設のボランティア養成セミナーでは、体験や参加者同士のグループワークを中心に行ってきたが、本年度、NEAL リーダー養成講習も兼ねたために講義が増えたが、このような学識経験者、体験活動の実践者等による講義が、参加者にとって非常に重要であることが改めてわかった。

- 「体験活動をしてみて、子どもだけではなく、自分自身の成長にも自然体験活動は良いことがわかった。」「アウトドアって楽しい。どんどん外に出て、色んな人達と一緒に多くの体験をすることは、長い目で見て自分の財産になる。」とあるように、こうした講習会やセミナーで、ボランティア自身が参加者として“体験”をする機会を設けることの意義について、改めて気づくことができた。

野外炊飯やキャンプファイアーについては、「体験者としてとても楽しめた。」、シーカヤックについては「初めてのシーカヤックとても楽しかった。」との感想があった。体験することが“楽しい”。これが指導者としてのスタート、原動力、原点ではないだろうかと考える。自分自身が楽しいことを誰かに伝えたい。そんな単純なところから、指導者やボランティアを初めていくことができれば、この先も続けていくことができると考える。

そして、“色んな人達と一緒に”ということも大切なキーワードではないだろうか。

社会に出ていくことは、様々な人と関わることだろう。様々な人達と関わりながら、体験をしていくで、これから社会に出ていく大学生等の社会性が育まれていく場にもなればよいと考える。当施設の教育事業でのボランティア活動についても、こうした視点を持って臨んでいくこととしたい。

- 以上の2点から、指導者養成講習やボランティア養成セミナーで、「講義」と「体験」のバランスを考えて事業を実施することが非常に重要であることが分かった。このバランスは、事業の大きな目的で異なるし、参加対象者によっても異なるだろう。常に最適なバランスはどのようなものか、考えながら企画していくことが求められる。

また、今回、リスクマネジメントの講義において、自身が「体験」したことを題材にして、理解を深めていったのだが、こうした仕組みは効果的ではないかと感じる。初日は、天候が悪く、風が非常に強く、雨も降りそうな状況であった。その際に、参加者に必ず知って欲しかった薪割りの指導を室内で実施し、また、キャンプファイアーについては、直前まで実施の判断を引き延ばし、危険な状況であることを理解しつつ実施した。その体験をもって、リスクマネジメントの講義の中で、どのようなことが危険であったのか、それに対してどう対処したらよいかについてグループワークを実施した。運営側が危険だと思うことは、参加者が危険だと感じており、それに対して、運営側がどう対処したのかについて、考え方や判断を伝えていくことで、指導者としての視点も学ぶことができる。指導者養成研修やボランティア養成セミナーについては、特に「体験」をただの体験として終わらせるのではなく、その「体験」を設定した目的やねらいなどを明らかにする「意図開き」をすることは重要である。参加者が臍に落ちたりや“すれ”を認識することが、参加者が体験活動について理解を深めるきっかけとなるのではないだろうか。「スタッフの方の事業に対する思いが伝わりました。3日間無事に活動させていただけて何よりです。ありがとうございました。」こうした感想が聞けたことをありがたく、うれしく思う。

課題

- 本年度は、自然体験活動指導者養成講習とボランティア養成セミナーを兼ねて実施した。成果でも挙げたが、「講義」と「体験」のバランスについて、参加者から「NEALリーダーの資格のためには講義が多いのは当然とはわかっているのですが、新たに法人ボラになる子にもっと楽しめる活動をして、若狭のリピーターになるような工夫をお願いしたいです。」との感想も聞かれた。当施設のボランティアの多くは、佛教大学レクリエーション研究会、福井県立大学ボランティアサークルレインボーに所属している大学生である。毎年、当施設のボランティア養成セミナーは、両大学サークルの年度当初の合宿としての位置づけもある。こうしたサークルに所属する大学生が、ボランティア養成セミナーに期待することと、自然体験活動に興味があり、指導者を志す人が指導者養成講習に期待することは、大きくは異ならないにしても、差異は少なからず

あるだろう。子どもの発達段階に応じて、適切かつ安全に指導ができるようになるきっかけを作ることは、ボランティアに対しても、自然体験活動指導者に対しても同じである。自然体験活動に興味があり、指導者を志す人は、おそらくどこかで自然体験活動の“良さ”や“楽しさ”に触れる経験があったからこそ、そう思うようになっているだろう。では、初めて当施設のボランティア養成セミナーに参加しようと思った学生、先輩に誘われて来ようと思った学生はどうだろうか。なんか楽しそうだと思った、子どもと関わりたい、でもキャンプや自然体験活動をあまりしたことがない、様々な思いを持って来ているのだろう。こうした学生の思いに応えるためにも、またこうした学生が自然体験活動をもっとしてみたい、楽しい、面白い、学びになるなど、継続したいと思わせるきっかけを作ることも、必要であると感じる。自然体験活動に対する魅力を感じられる機会としてのボランティア養成セミナーとしての位置づけも今後継続して検討していく必要があるだろう。こうした魅力を伝える場としては、指導者養成研修としての事業にとっても重要な意味を持つと考えられる。

- 今後、参加者をどのようにしてボランティアとして、指導者として、継続的に活動や学びの場を提供していただくことができるのかについて、本事業を通して、参加者に十分に伝えることができていなかったと感じている。事業では、NEAL 制度の仕組みとして、概論と演習があり、インストラクターやコーディネーターの上級資格があることや、ボランティアとして、参加できる子どもたちを対象とした事業の内容についての紹介をした。今後は、各事業等において、指導者として、ボランティアとして、どのような関わり方をして、どんな役割を担い、そこから何を学んでもらいたいのか、企画指導専門職を中心として、検討していくことが望まれる。“モラトリアム”という言葉があるように、社会的責任をすべて負うことなく、自発的に自分の思いを表現したり、人との関わりながら一つの事業を創ったりする経験を積み重ねていくことは、青少年の自立にとって欠かせない体験であろう。時に楽しく、時に大変な思いもしながら、体験活動を通して、子どもたちとともに成長していけるような場に、当施設の事業や活動が値するためには、どうしたらよいのか、きちんと考えていきたい。

最後に

本事業の講師として、ご多用な仕事の連休という大変貴重なお時間をいただき、お越しいただいた、青木康太郎氏、島崎晋亮氏、平田裕一氏、安田公一氏に心より感謝申し上げます。

また、参加していただいた皆様にも感謝申し上げます。

ありがとうございました。